



図8 流速と稚仔残留率の関係

いる個体はいませんでした(図8)。

おわりに

流速の増加はマナコ浮遊幼生の着底及び、稚仔の付着を困難にする可能性が示唆されました。野外で観察された稚ナマコ生息場所として報告されている様々な水深の玉石帯では、石の裏側や隙間に静穏性の高い場所が形成されていると思われ

ます。また、潮間帯のタイドプールや掘削溝の中でも、同様に流速の穏やかな場所が形成され、浮遊幼生の着底や初期稚仔の生息を可能にしていることが考えられます。

玉石帯はナマコだけではなくエゾアワビやウニ類にとっても浮遊幼生の着底や稚仔の生息場所として重要な環境です。稚ナマコやエゾアワビの稚貝は、埋没せずに複層に重なっている玉石の下側や、そのような玉石が作る隙間に生息していることが潜水調査で観察されています。

今後は、玉石が重なることで生ずる隙間の流動環境について、電磁流速計による実験水槽内での観測や、石膏球を用いた野外試験により明らかにしていきたいと考えています。

(干川 裕 中央水試水産工学室、酒井勇一 栽培水試生産技術部 報文番号 B 2312)

各水試発トピックス

「2009 おおなご&フードフェスタ in WAKKANAI」に参加しました

2009年7月12日(日)に稚内機船漁業協同組合市場特設会場で開催された「2009 おおなご&フードフェスタ in WAKKANAI」に稚内水試が後援機関として参加しました。

このフェスタは、PR活動を通じて稚内特産のおおなご(標準和名:イカナゴ)の地域ブランド化をめざすことを目的に、実行委員会(稚内地域食材付加価値向上協議会)の主催で、稚内機船漁業協同組合、宗谷支庁、稚内市、稚内商工会議所、各観光協会、当水試が協力して、開催されたものです。

当日は、料理研究家の星澤幸子先生のクッキン

グ教室のほか、おおなご大使任命式、おおなごのつかみ取りなど多数のイベントが行われ、約2,200人の観客が会場を訪れました。当水試は「おおなごミニ水族館」として活魚を展示したほか、前田資源管理部長がおおなごの生態、漁業、利用などについて講演を行いました。

当水試では今後も、このような取り組みを通じて、地域の活性化に貢献してまいりたいと考えております。



おおなごミニ水族館のようす

(白幡康治 稚内水試企画総務部)